

令和3年度 認定看護師教育課程修了式



茨城県立医療大学 地域・社会貢献研究センター
専任教員養成講習会・認定看護師教育課程 合同修了式

令和4年3月25日茨城県立医療大学大講義室にて、令和3年度専任教員養成講習会・認定看護師教育課程 合同修了式が執り行われ、認定看護師修了生代表 白石春代さんへ修了証が授与されました。

専任教員養成講習会・認定看護師教育課程 合同修了式



松村学長から式辞をいただきました。修了生からは、渡部麻梨さんが代表挨拶を行いました。



修了生答辞

修了生代表 渡部 麻梨

(医療法人徳洲会 武蔵野徳州会病院)

肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも春のおとずれを感じるようになりました。この良き日に、私たち修了生のためにこのような式を挙げてくださり、心より感謝申し上げます。本日、ご多忙の中、私たちのためにご臨席くださいました学長はじめ諸先生方へ修了生一同心より感謝申し上げます。

本日、私たち 11 名は茨城県立医療大学認定看護師教育課程を修了します。まず、今までご指導して下さった先生方、実習指導者、貴重な時間や経験を与えてくださった患者様やご家族様、私たちに学ぶ機会を作って下さった職場の皆様、様々な面で支えてくれた家族に修了生一同心より御礼申し上げます。

本年度から、本課程は 1 年間の特定行為研修を含む教育課程となりました。振り返るとこの 1 年間は長いようで短い、充実した日々となりました。4 月からの半年間は、仕事をしながらの e-ラーニング、集合研修での演習やグループワーク、試験、特定行為研修の実習を通して「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の特定行為について学びました。仕事をしながら学習時間を確保することは簡単なことではなく、また職場が多忙な時期に学習の機会を作ってもらっていることに心苦しく感じることもありました。しかし、e-ラーニングでの個人の学びについて仲間とともに演習やグループワークを行うことでフィジカルアセスメントや臨床推論の考え方など知識を深めたり、視野を広げたりすることが出来ました。この半年間は対面で学ぶ機会は少なかったですが、最前線で特定行為実践をされている指導者の方に刺激を受け、また同じ不安や悩みを抱えながらも、同じ志を持った仲間に出会えたことに感動したことを覚えています。

11 月からは、認定看護師教育課程の教室での対面授業や演習、試験、模擬事例を用いた、看護過程のグループワーク、臨地実習を通して「摂食嚥下障害看護」について学びました。15 期生それぞれの「食べることを支えたい」想いを胸に日々、学習に励みました。グループワークを通して、学んだ知識を共有したり、看護とは何かを振り返ったり、正解がない“患者にとっての最善な看護とはなにか”について朝方まで悩み、考え抜いた日々もありました。このような学内での学びを糧に、不安を抱えながらも臨地実習に臨みました。これまで学んだ知識やフィジカルアセスメントをもとに患者様の全体像を捉えること、患者様の強みを捉えて最大限に生かした看護実践を行うことの難しさを痛感しながらも、看護を行いました。また、その中で自分ひとりの知識や技術では限界があり、病棟看護師との連携や多職種との連携の大切さを実感することが出来ました。さらに認定看護師の役割でもある相談や指導の実習を通して、人に伝えることの難しさを痛感しました。在宅実習では、その人らしい生活を守る看護の難しさを学びました。

今後はそれぞれ自施設へ戻り、1 年間で学んだことをもとに摂食嚥下障害看護特定認定看護師として実践していくことが求められます。まだ不安も大きく、新たな壁にぶつかることもあると思います。そのときには、「食べることの尊さ」について考え、ともに学

び、多くの時間を共有したかけがえのない仲間と過ごした日々を思い出し、患者様のために考え抜いた日々の誇りを胸に、一步一步進んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、皆様のご健康と茨城県立医療大学摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程がこれからも素晴らしい発展を遂げていくことを祈念し、答辞とさせていただきます。